

参考資料 1：植栽検討委員会の概要

(1) 目的

大和御所道路（大和区間5工区）の小槻町交差点（橿原北 IC）から曲川町東交差点における植栽整備方針のとりまとめに向け、有識者などの知見を得ることを目的に開催した。

(2) 委員構成

本委員会は、2年度にまたがり開催したため、一部委員が変更となった。

○令和2年度

<委員長>

榎村 久子 京都女子大学名誉教授

<委 員>

岩井 珠恵	ヴィジュアルデザイナー
井原 縁	奈良県立大学 教授
岡部 共成	奈良県 県土マネジメント部 道路建設課 課長
大東 宏幸	奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課 課長
近藤 浩明	橿原市 まちづくり部 部長
青山 淳	近畿地方整備局 奈良国道事務所 副所長

○令和3年度

<委員長>

榎村 久子 京都女子大学 宗教・文化研究所 客員研究員

<委 員>

岩井 珠恵	ヴィジュアルデザイナー
井原 縁	奈良県立大学 教授
六車 憲雄	奈良県 県土マネジメント部 道路建設課 課長
大東 宏幸	奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課 課長
近藤 浩明	橿原市 まちづくり部 部長
宮井 達也	近畿地方整備局 奈良国道事務所 副所長

※第3回以降は、近藤浩明委員から川田茂人委員に変更。

(3) 開催概要

第1回植栽検討委員会

開催日：令和3年1月28日（木）

議事内容：（１）大和御所道路（檀原北 IC～檀原高田 IC）の概要
（２）檀原バイパス植栽の経緯と現状
（３）工事による現況植栽への影響と植栽エリア（イメージ）
（４）植栽検討委員会の進め方（案）と今後のスケジュール（案）

第2回植栽検討委員会

開催日：令和3年6月24日（木）

議事内容：（１）ワークショップ結果の報告
（２）植栽可能区域の説明
（３）植栽の理想像（基本理念(案)、基本方針(案)）
（４）アンケート実施方針
（５）新たな道路植栽と地域とのつながりを維持するための方策

第3回植栽検討委員会

開催日：令和3年12月3日（金）

議事内容：（１）アンケート調査結果の報告
（２）ワークショップ結果の報告
（３）環境分野有識者ヒアリング結果の報告
（４）植栽整備方針書（素案）の説明
（５）候補樹種選定方針の説明

第4回植栽検討委員会

開催日：令和4年2月21日（月）

議事内容：（１）ワークショップ結果の報告
（２）植栽整備方針書の説明
（３）植栽整備方針書概要リーフレットの説明



図 委員会開催状況

参考資料２：植栽検討ワークショップの概要

（１）目的

大和御所道路（大和区間５工区）の小槻町交差点（橿原北 IC）から曲川町東交差点における植栽整備方針のとりまとめに向け、近隣住民の意見や要望を得ることを目的に開催した。

（２）ワークショップメンバー構成

ワークショップは、対象区間の沿道自治会の代表者各数名が参加し、意見交換を行った。また、オブザーバーとして、植栽検討委員会の委員長や奈良県、橿原市の職員も参加した。

<ワークショップメンバー>

京都女子大学名誉教授 榎村 久子

関係自治会

奈良県 県土マネジメント部 道路建設課 主幹

奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課 課長補佐

橿原市 まちづくり部 道路河川課 課長

橿原市 まちづくり部 都市計画課 課長

橿原市 まちづくり部 緑地景観課 課長

近畿地方整備局 奈良国道事務所 総括保全対策官

(3) 開催概要

第1回植栽検討ワークショップ

開催日：令和3年2月26日（金）

テーマ：『現在の植栽帯について』

内容：現在の植栽帯の良い点、改善すべき点についての意見交換

第2回植栽検討ワークショップ

開催日：令和3年3月25日（木）

テーマ：『植栽が担う新たな役割について』

内容：新たな植栽帯に求める役割についての意見交換

第3回植栽検討ワークショップ

開催日：令和3年10月8日（金）

テーマ：『植栽整備の理想像について』

内容：新たな植栽帯の望ましいイメージについての意見交換

第4回植栽検討ワークショップ

開催日：令和4年1月14日（金）

テーマ：『植栽整備基本方針について』

内容：新たな植栽帯に求める樹種・シンボルツリーについての意見交換



図 ワークショップ開催状況

参考資料３：アンケート調査の概要

(1) 目的

本調査は、橿原バイパスの新たな植栽整備に対する沿道住民の幅広いニーズを把握することを目的に実施した。

(2) 調査期間

令和３年８月１８日（水）～３１日（火）の２週間

(3) 対象者

対象区間沿道４町（小槻町、大垣町、土橋町、曽我町）の住民

(4) 配布手法

ポスティング配布・WEB 回答用案内チラシ配布
（橿原バイパスから 200m 程度の範囲）

(5) 回収手法

郵送回収・WEB 回答の併用

(6) 配布部数

1,000 部

(7) 回収結果

本調査では、郵送、WEB それぞれで以下の回収数であり、全体で 417 票を回収した。なお、全体の約 1/4 が WEB による回答であった。

表 アンケート回収数

回答手段	回答数	割合
郵送	323 票	77.5%
WEB	94 票	22.5%
合計	417 票	100.0%

(8) 回答結果

1) 回答者属性

20 代以下の回答者はわずかであったが、年齢、性別、所属自治会ともに、大きな偏りがなく、幅広い意見を聞くことができた。

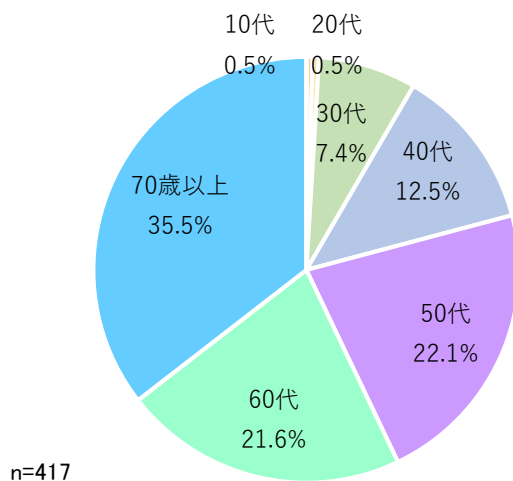


図 回答者の年齢区分割合

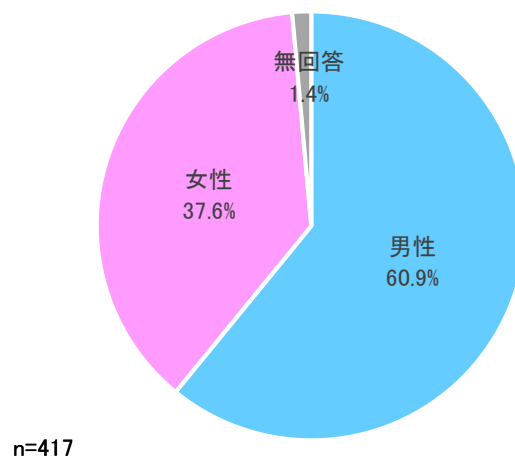


図 回答者の性別割合

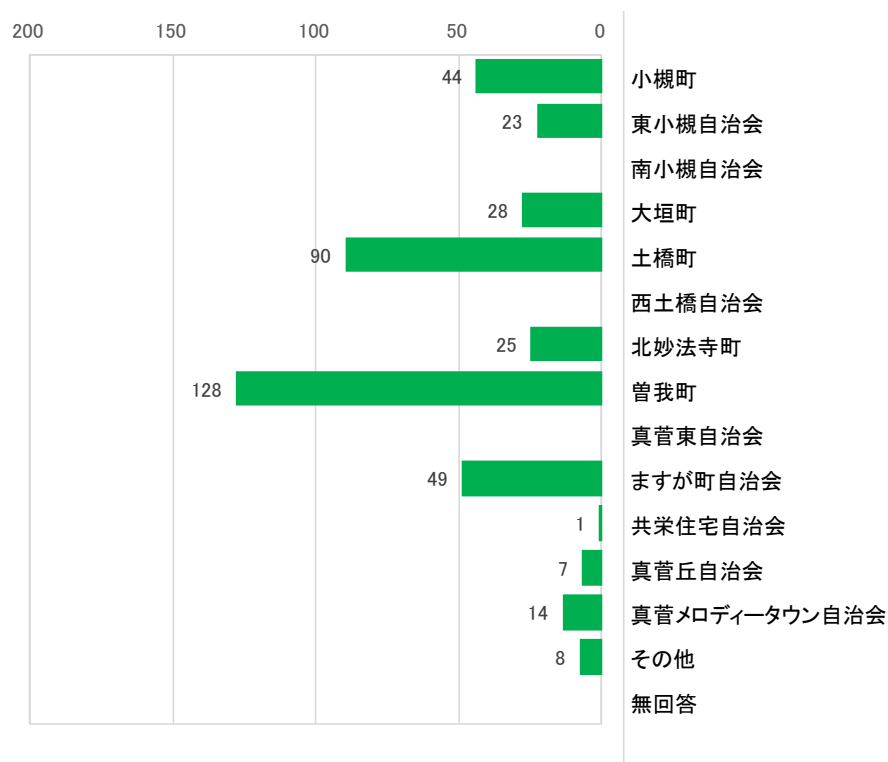


図 回答者の所属自治会

2) 現況植栽帯に対する意見（複数回答）

現況植栽帯に対する良い意見としては、「緑が多い点」が最も多く、「騒音が軽減される」「排気ガスが軽減される」「走行車両を感じない」など、日常生活環境の向上に寄与している点を良く感じている意見も多かった。その他の意見には、「日陰ができる」「CO₂削減」「自然を感じられる」などの意見があった一方で、「ゴミの投棄」「鳥害」「落葉」などの改善すべき点に該当する内容も非常に多く、「特になし」「良いと感じることがない」といった意見も複数得られた。

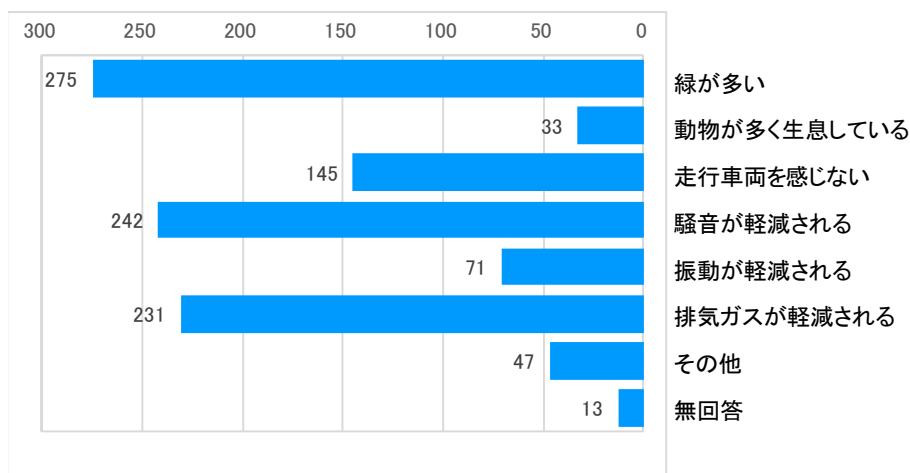


図 現況植栽帯の良い点

現況植栽帯に対して改善すべきと感じている意見としては、「ゴミの投棄の多さ」が突出しており、周辺住民にとってゴミ投棄の問題が最も大きいことが分かった。また、「管理の不足」「鳥害」などに対して不満を感じている意見も多かった。その他の意見には、選択肢を補足する内容が多かったが、落葉や雑草の多さや景観が悪化していることを問題視する意見もあった。

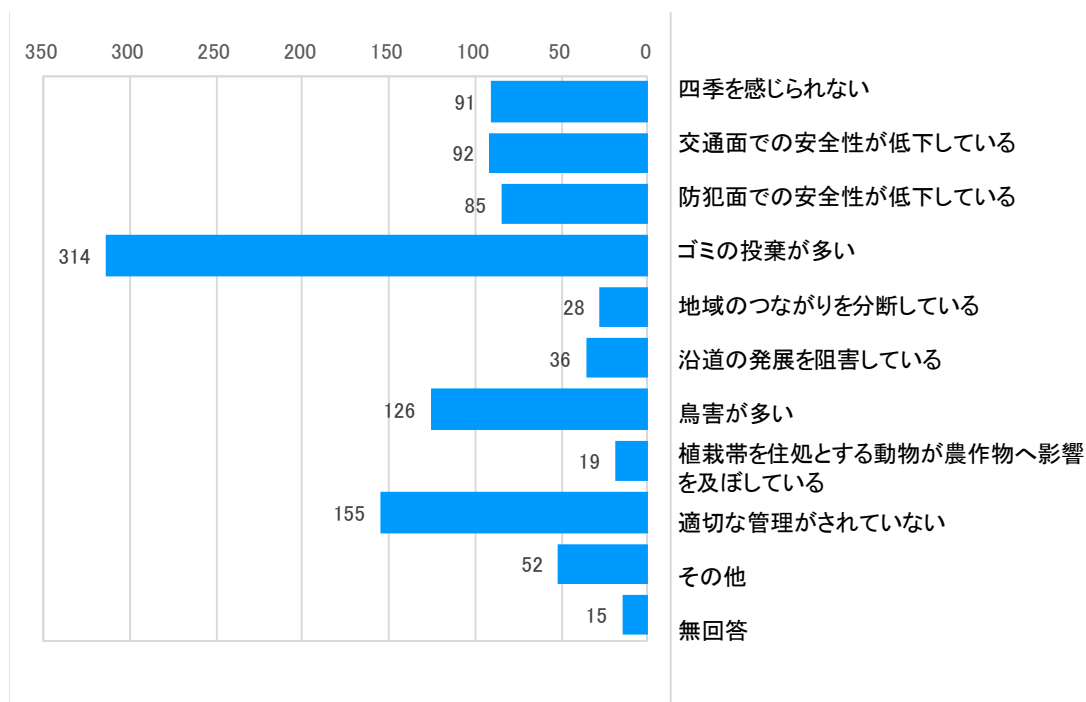


図 現況植栽帯の改善すべき点

3) 新たな植栽の理想とする姿（役割）（複数回答）

新たな植栽の理想とする姿（役割）としては、現況植栽帯の良い点としても多くの意見があった「騒音の軽減」や「排気ガスの軽減」を求める声が多く、新たな植栽帯においても、生活環境の保全を強く求める結果となった。また、それらを除くと、「周辺景観との調和」や「豊富な緑量の確保」といった、緑豊かな空間を求める意見が多く得られた。その他の意見には、上記選択肢を補足する内容が多かったが、現況植栽帯が良いという意見や植栽帯自体が不要という意見もあった。

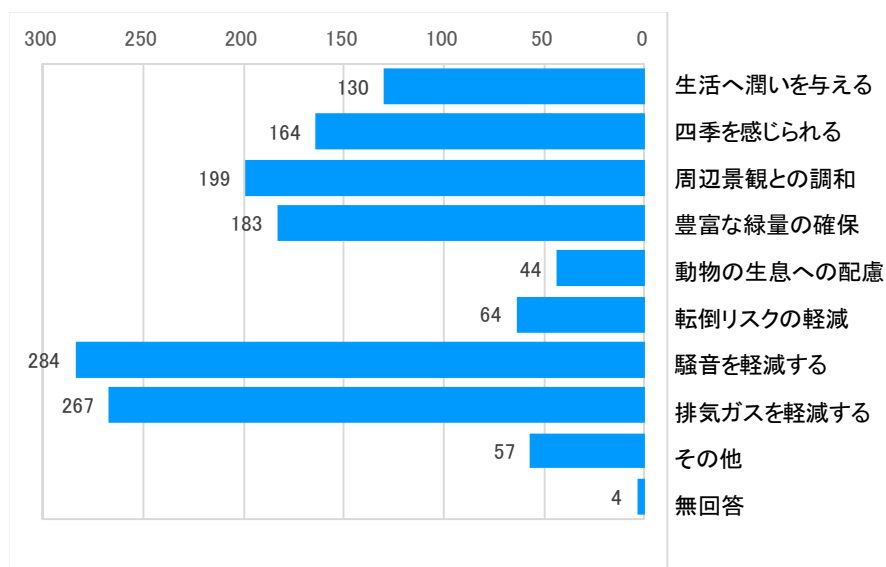


図 新たな植栽の理想像

4) 望ましい配植イメージ

新たな植栽に望ましい配植イメージは、少し密に中高木を植える配植を求める声が全体の5割以上を占め、現況植栽帯のような密植まではいかないものの、やや密度を高めた植栽を求めていることがわかった。

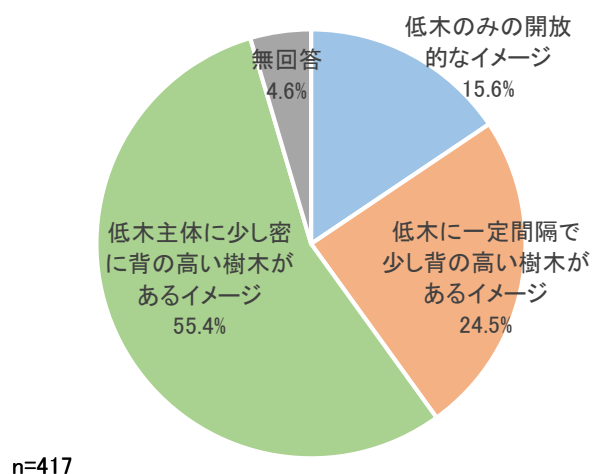


図 望ましい配植イメージの割合



図 配植イメージ

(左上：低木のみ 右上：低木＋中木
左下：低木＋中高木)

5) 望ましい植栽イメージ

新たな植栽に望ましい植栽イメージとしては、一年を通して緑を感じられる植栽帯と四季の変化を感じられる植栽帯は、概ね同様の割合であり、四季の変化を強く求める回答ではなかった。

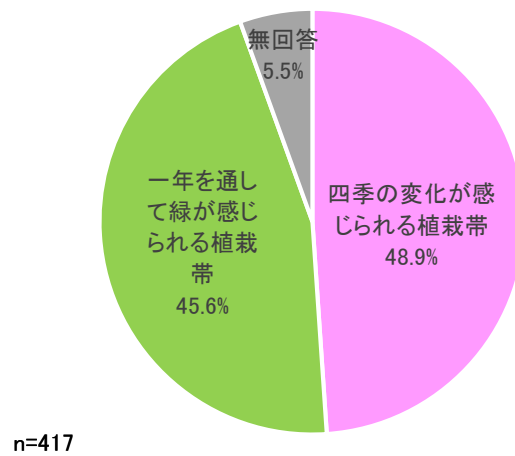


図 望ましい植栽イメージの割合



図 植栽イメージ (左：四季の変化を感じる植栽 右：緑豊かな植栽)

参考資料４：上位・関連計画の配植方針

(1) 大和区間

1) 候補樹種

樹種は、「奈良らしい樹種（万葉植物、沿線市町の木・花、橿原バイパスの既存樹木）」「市場性」「街路樹としての適応性」を考慮して以下の樹種を挙げている。

表 使用樹種一覧

常緑高木	アラカシ、シラカシ、スダジイ、ユズリハ
落葉高木	イチョウ、アオギリ、アキニレ、シダレヤナギ、センダン
常緑中木	マサキ、サザンカ、ツバキ類
常緑低木	クチナシ、シャリンバイ、ツゲ類、ツツジ類、トベラ
常緑地被	ヤブラン、ササ類
常緑蔓性	サネカズラ、ティカカズラ

2) 配植方針

区間全体を工業系・IC 近接型混在地区、田園地区、市街地近接地区の３つに大別し、角地区の配植方針を設定する。

①工業系・IC 近接型混在地区

枝下高の高い高木の列植と常緑性の低(花)木を植えただけのシンプルな構成によって周辺施設やサインの確認が容易で、歩行者側からも見易い視認性を得る。

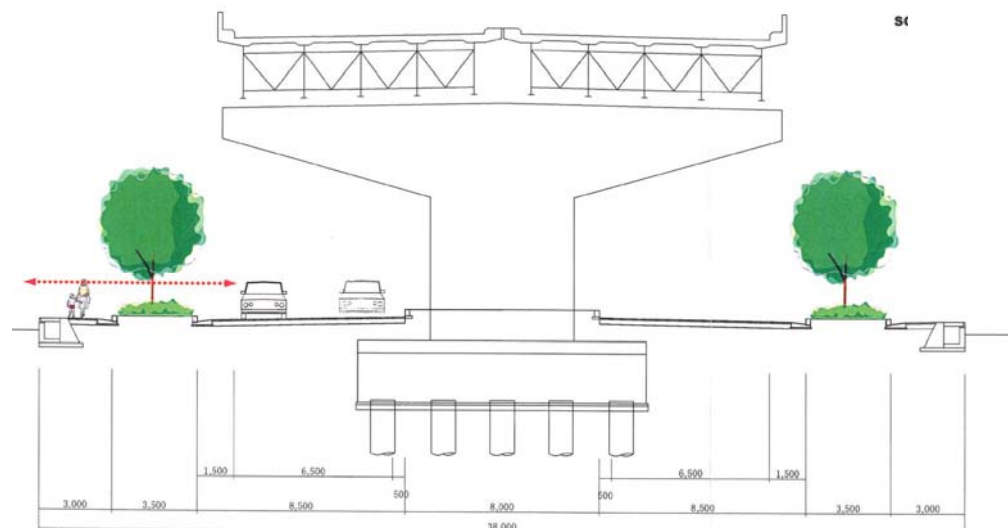


図 工業系・IC 近接型混在地区の緑化

②田園地区

植栽帯の中央部を 1m 程度マウンド(盛り土)して車道側には低木、中木を配し騒音と煤塵飛散の低減を図る。同時に歩行者側から車を見えなくする。

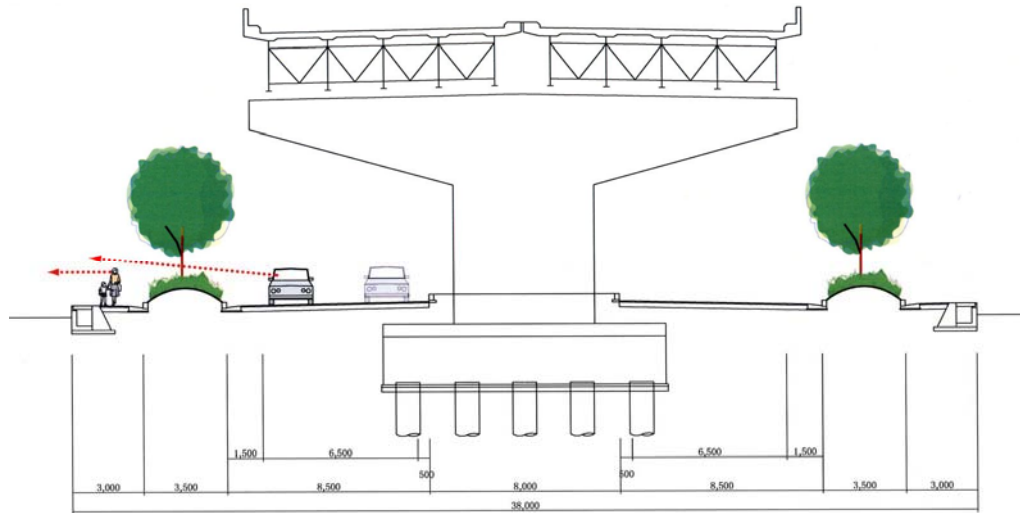


図 田園地区の緑化

③市街地近接地区

植栽帯の中央部を 1m 程度マウンド(盛り土)して車道側には低木、中木を密に配植し、歩行者側から車を見えないよう隠すと共に騒音や煤塵の抑制、低減に努める。

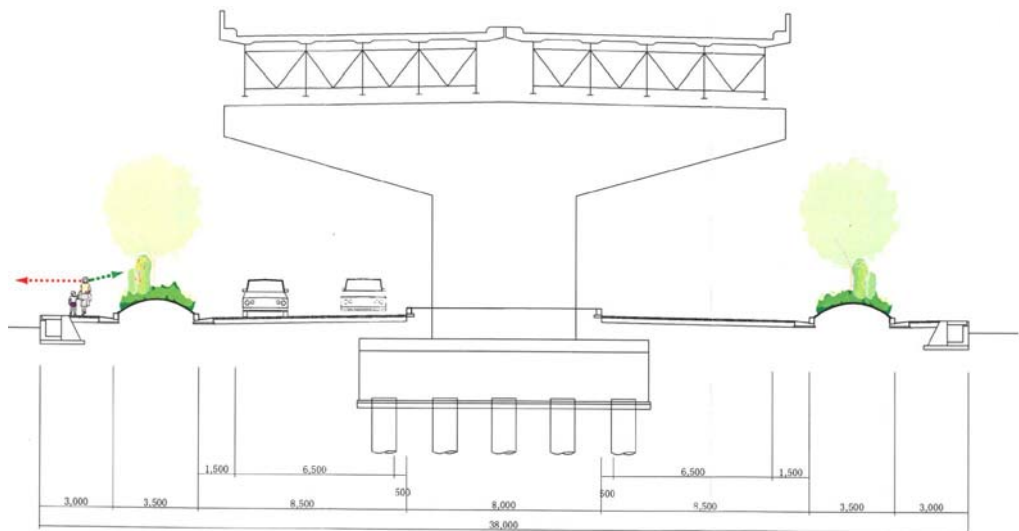


図 市街地近接地区の緑化

(2) 隣接区間（保津西交差点～小槻町交差点区間）

1) 樹種選定

樹種は、「潜在自然植生種」「準潜在自然植生種」「種子を生産しない種・種子を生産しても発芽力が弱い種」「万葉期の外来種」「園芸種」の観点で、以下の樹種を挙げている。

●潜在自然植生種

高木：イチイガシ、アラカシ、ナナミノキ、ヤマザクラ*

中木：ヤブツバキ*、シロダモ、イヌガシ、サザンカ*、モチノキ、カナメモチ、クロガネモチ、ヒイラギ

低木：ヤツデ、アオキ、クチナシ*、ヒサカキ、ネズミモチ

●準潜在自然植生種

高木：シラカシ、クスノキ、ツクバネガシ、シイ、ナツツバキ*

中木：アキニレ、ソヨゴ、アセビ*、カクレミノ、タムシバ*、コブシ*

低木：イヌツゲ、テンダイウヤク*、シャリンバイ*、ノイバラ*、シャシャンボ、モチツツジ*

●種子を生産しない種・種子を生産しても発芽力が弱い種

中木：キンモクセイ*、ギンモクセイ*

●万葉期の外来種

中木：シダレヤナギ

●園芸種

低木：ハナソノツクバネウツギ*、ヒラドツツジ*、ハクチョウゲ*

凡例：*花を鑑賞 落葉広葉樹

2) 配植デザイン

配植デザインは、沿道の土地利用に応じて、3つのイメージが作成されている。

イメージ（１） 商工業系

○内 容

商工業系（市街地近接地区）は、四季の変化を体感できる親しみがあり季節感のある緑の軸を形成

植栽の形態

	高木	中木	低木
木の高さ	10m程度	3m程度	1.0m以下
横断方向配置	1本 中央配置	3本 中央配置	全 面
延長方向配置	8～10m 間隔	高木3本に 1本間隔	全 面

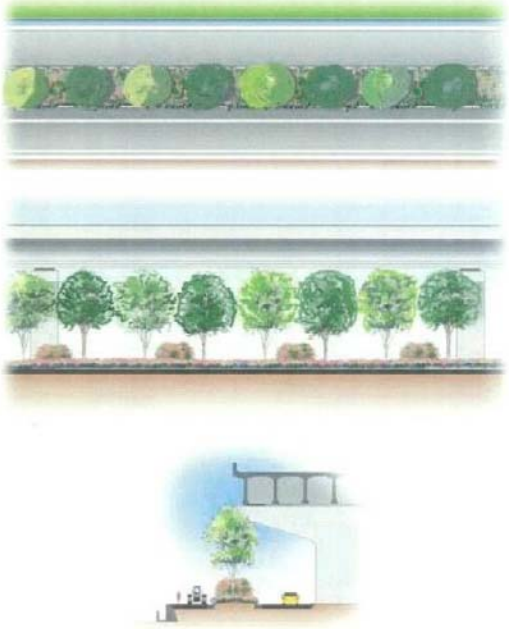


図 商工業系植栽デザイン

イメージ（２） 住宅系

○内 容

住宅系は、既存形態を踏襲し重点的な緑量の確保と環境の保全を考慮した樹種を配置するとともに季節感にも配慮した緑の軸を形成

植栽の形態

	高木	中木	低木
木の高さ	10m程度	3～5m	1.0m以下
横断方向配置	2本 千鳥配置	1又は3本 千鳥配置	1本 外側
延長方向配置	5～6m 間隔	高木1本に対し1又は3本	全 面

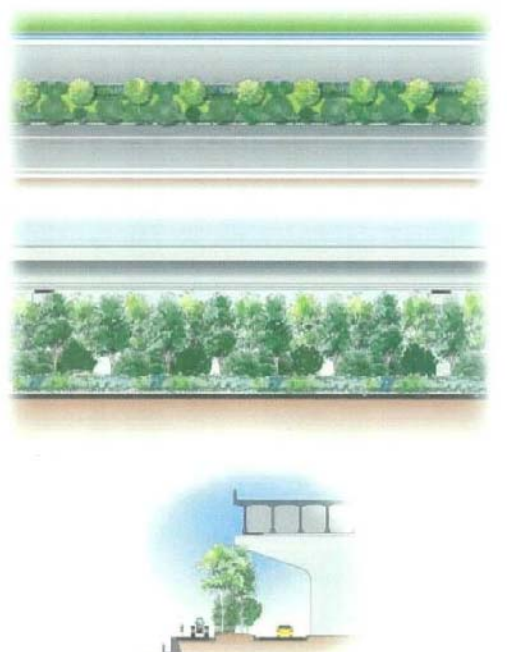


図 住居系植栽デザイン

イメージ（３） 田園系

○内 容

田園形は、開放感とともに季節感をもたせ景色を楽しむ緑の軸を形成

植栽の形態

	高木	中木	低木
木の高さ	6～10m程度	3m程度	1.0m以下
横断方向配置	1本 千鳥配置	3本 千鳥配置	2本 内側、外側
延長方向配置	20m間隔	高木1本あたり1本	全面 (歩道部除く)

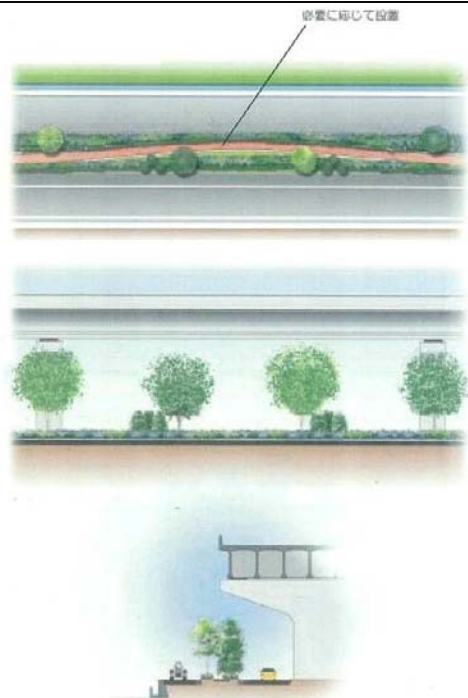


図 田園系植栽デザイン